

2019 年(平成 31 年)2 月号	一般社団法人 沖縄国際マングローブ協会ニュース	発行責任者 連絡先 上野和昌 090-8292-16900
------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------

第7回ステップアップマングローブ講座
 日時 2019年1月20日(火)13時30分から16時30分
 場所 名護市屋我地支所 天候不良で室内講義のみに変更
 講師 中須賀常雄会長



議論について

- 慶佐次川の上流に畜産施設があり降雨によって川に排泄物が流失する。この影響はどうか
 回答 水質の検査をしてみてもどうか。
- インドネシアの津波の被害でマングローブ林の有無で被害の差が出たという。防災面で協調すべき
 回答 災害に強いマングローブ林としてアピール。
- 陸をつくるというマングローブ林の特性から観光資源として管理する方法はどうすればいいか
 回答 慶佐次川でも以前あったメヒルギ林が無くなり、橋のたもとには新しい林ができている。
 全体をマングローブ林として維持する必要がある。
- 億首川のマングローブ林でも衰退している場所があり、後継樹種を植栽する必要がある。
- 漫湖のマングローブ林については、マングローブ林が広がり、林内に土が堆積して陸地が進み、鳥類の餌としての底生動物が減少したということでマングローブ林が伐採され干潟の回復がはかられたが、その結果として飛来する鳥類が増加したどうかの調査結果は見えていないのでわからない。
- ヒルギダマンはヤギが食べておいしいようだ。
- 大宜味村大保に植栽したメヒルギ林について立地条件等を検証する必要がある。
- マングローブを移植するのは難しい。根鉢が崩れないように鉄板を差し挟み込み、箱状にして移植する必要がある。
- ヒルギダマンの分類は従来の基準以外に DNA の分析も加わり、詳しくなり、学者によって意見が異なる。

屋我地饒平名

2015 年 7 月

2019 年 1 月

ヒルギダマン樹高 186 cm 根元直径 11.3 c m

